



## 習字に使う墨はどうやって作るの

### 松や油のすすをにかわで練って作る

書道の練習をするときは、墨とすずりを用意し、よい色が出るまで、心静かに、墨をすりますね。

墨は、松・油のすすを「にかわ」とかした液で練り、香料や薬を加え、それを型に入れて固めて作ります。にかわというのは、けもの骨や皮などを、につめて作る接着剤のようなものです。

墨は、その原料によって、油煙墨と松煙墨の二つに分けられます。油煙墨は油を、燃やすときに燃やすすすを、松煙墨は松の木を燃やすときに燃やすすすを原料とします。

製作工程は、原料の選定、すすの採集、すすの圧縮、にかわをとかず、すすとかわを混ぜ合わせる、型入れ、灰の中でかわかす、自然にかわかす、ハマグリの貝殻で磨く、色をつけ、出荷するの順です。

墨の形にはいろいろあり、文字や文様をつけたりします。

よい墨といわれるものは、よい墨色が出るものをいいます。このために、墨の質がよいこと、すずりがいいものであること、墨の磨き方がじょうずであること、そして、水質のよい水が手に入ることなどが重要です。

### 世界最古の墨は、正倉院の御物

もともと、墨は、中国で作られたもので、初めは天然の石墨を使っていたようです。また、これを粉にして、うるしを混ぜて作ったようです。漢の時代になると、松のすすをにかわで練って作るようになりました。今、残っている世界最古の墨は、正倉院にある御物のなか、ふながたつつがたしらぎすみねんせいぞう中の船形・筒形の新羅墨（716年製造）です。（監修・青木 国夫）

